

首都圏における高齢者グループリビングの実態に関する研究

日大生産工(院) ○永井 悠次郎 日大生産工 川岸 梅和
日大生産工 北野 幸樹

1 はじめに

近年、わが国では、高齢化が急速に進む^{注1)}と共に、高齢者の単独世帯や、高齢者のみの世帯が著しく増加している。

総務省の統計調査によると、平成22年9月15日現在、高齢者の総人口は2,944万人となり、高齢化率は23.1%となった。国立社会保障・人口問題研究所の人口統計資料集(2010)によれば、2025年には高齢化率は30.5%を超え、2035年には33.7%となり、3人に1人が65歳以上になると予想されている。

また、核家族から単独世帯へと世帯構造が変化し、特に高齢者単独世帯は23.0%(厚生労働省「平成21年国民生活基礎調査」)となり、高齢者の一人暮らしが年々増え続けている。^{注2)}それに伴い、誰にも看取られずに亡くなる孤立(独)死が深刻化し、全国で年間に3万人近くに上る^{注3)}と推測されている。最近では、不明老人の問題もマスコミ等で取り上げられ、高齢者の孤立、近隣でのコミュニケーション不足等が浮き彫りになっており、社会的問題となっている。

2 研究の目的

東京都の「在宅高齢者実態調査(平成19年度)」によると、65歳以上のうち8割を超える高齢者が介護保険の介護認定を受けていない元気な高齢者であり、介護を必要とする高齢者の住まいに関する研究と共に、健常高齢者の住まいに関する研究が必要と言えよう。

本研究では、グループリビングの平面面積・平面構成の在り方と居住者の居住・生活環境に対する満足度、周辺環境の状況と居住者の周辺環境に対する満足度、地域との関係、生活実態等について調査・研究を行い、今後、健常高齢者の新しい住まい方と期待されるグループリビングにおいて、どのような環境が居住者にと

って、良質な居住環境となるかを調査、分析すると共に、居住者の年齢・居住年数について類型化を行い、居住・生活環境、周辺環境、地域との関係について、クロス集計を行い、首都圏におけるグループリビングの実態に関する傾向的特性を把握することを目的とする。

3 研究の方法と内容

本研究では、インターネットウェブサイト、文献等から健常高齢者が生活している首都圏のグループリビング20事例に対し、2009年4月と2010年4月にアンケート・ヒアリング等のソフト調査、及びグループリビングの平面構成・周辺状況等、住環境・生活環境に関するハード調査を行った。尚、本稿では有効回答を得られた14事例を調査対象グループリビングとし、ソフト・ハード両面からグループリビングの実態と問題点を整理し、報告する。

アンケート調査は、各グループリビングの管理者と居住者を対象に配布は郵便によって、回収は郵便及び訪問回収によって行った。ハード調査である周辺の土地利用面積・建物利用面積等は住宅地図^{注4)}をもとに算出した。

表1 調査方法・内容

	方法	調査対象	内容
ソフト調査	アンケート ヒアリング	居住者	居住・生活環境への評価、周辺環境への評価、地域との関係、生活実態等
		管理者	グループリビングの建物・運営方法 スタッフ状況、周辺環境等
ハード調査	実測調査	建物	グループリビングの 建築形態・構造、平面構成等
		周辺環境	土地利用状況、建物利用状況等

表2 アンケートの回収率^{注5)}

	配布	回収	回収率
管理者	14名	14名	100%
居住者	116名	60名	52%

A study on the current state of groups of elderly persons living in the Tokyo metropolitan area

Yujiro NAGAI, Umekazu KAWAGISHI and Koki KITANO

表3 調査対象グループリビングの概要

建物の名称	運営主体	管理者名	開設	所在地	建築形態・構造	建築行為	コーディネーター数	スタッフ人数	入居者定員	現在の入居者	個室数	敷地面積(㎡)	延べ床面積(㎡)
GHK	個人	K.I	1998.1	神奈川県伊勢原市	木造2階建て	新築	1	1	6	6	7	183.9	279.0
GLH	NPO法人	R.K	2000.12 ^{※1}	東京都杉並区	木造2階建て	新築	1	4	5	5	5	330.0	250.0
CM	NPO法人	M.H	2003.1	神奈川県川崎市	壁式鉄筋コンクリート造3階建て	新築	1	7	10	7	10	909.3	604.7
YS	株式会社	K.N	2004.1	神奈川県藤沢市	壁式鉄筋コンクリート造2階建て	新築	1	7	12	11	12	545.6	698.6
GHH	NPO法人	K.M	2004.12	東京都江戸川区	鉄骨耐火3階建て	新築	1	7	10	7	10	604.7	909.3
SI	株式会社	SP	2005.4	埼玉県入間市	軽量鉄骨造2階建て	新築	1	4	16	14	16	1071.4	968.3
GLM	社会福祉法人	C.T	2006.1	東京都港区	壁式鉄筋コンクリート造10階建て	改築	1	0	8	8	8	596.6	250.2
GHS	株式会社	Y.E	2006.12	埼玉県比企郡	木造1階建て	新築	1	16	5	5	5	920.8	357.7
YA	株式会社	M.N	2006.5	神奈川県平塚市	壁式鉄筋コンクリート造2階建て	新築	1 ^{※2}	9	12	10	12	581.2	953.8
YK	株式会社	T.I	2006.6	神奈川県平塚市	壁式鉄筋コンクリート造2階建て	新築	1	8	12	12	12	572.1	839.1
SF	株式会社	SP	2006.7	埼玉県ふじみ野市	軽量鉄骨造2階建て	新築	1	4	16	14	16	1005.5	894.0
YTT	株式会社	S.M	2008.11	神奈川県藤沢市	壁式鉄筋コンクリート造2階建て	新築	1	4	15	4	12	805.0	636.0
YC	株式会社	J.O	2009.11	神奈川県茅ヶ崎市	壁式鉄筋コンクリート造2階建て	新築	1	10	16	7	16	988.2	788.7
YT	株式会社	T.K	2009.12	神奈川県藤沢市	壁式鉄筋コンクリート造2階建て	新築	1	8	26	4	20	1388.5	1104.2

※1)GLHはケア付きアパートとしては1988年に開設。 ※2)コーディネーターが居住者である。

表4 平面構成表

	分類	共用 ^{※1}	専用 (居室)	その他 ^{※2}	合計
平均値 n=14	全体面積(㎡)	283.2	289.1	42.2	614.5
	全体のパーセント	48.8%	45.8%	5.4%	100.0%
	居住者定員での 一人あたり(㎡)	25.0	22.8	47.8	
	一人あたり(㎡)	38.9	39.9	78.9	

※1)共用は、食堂・キッチン・リビング・廊下等、専用空間以外の部分を示す。
 ※2)その他は、居住者の利用できない空間(スタッフルーム、併設されたカフェ等)を指す。
 また、その他は、居住者が利用できないため、「居住者定員での一人あたり」「一人あたり」の面積は算出しない。

表5 土地利用面積の割合(半径1km圏域内)

	GHK	GLH	CM	YS	GHH	SI	GLM	GHS	YA	YK	SF	YTT	YC	YT
	割合(%)													
公共用地	13.8%	12.8%	6.5%	5.7%	8.3%	6.9%	4.9%	0.3%	5.7%	4.0%	6.2%	6.9%	5.0%	6.3%
商業用地	20.7%	5.0%	4.4%	3.7%	6.0%	6.8%	6.6%	6.4%	6.0%	6.5%	10.0%	4.2%	11.6%	16.2%
住宅用地	10.0%	49.0%	50.5%	53.2%	42.4%	40.5%	43.2%	14.4%	34.8%	32.2%	22.1%	43.8%	34.9%	39.3%
工業用地	5.8%	0.7%	0.0%	0.2%	9.3%	1.5%	0.8%	9.3%	11.0%	0.0%	12.2%	0.4%	2.1%	3.3%
農用地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
屋外利用地	0.8%	2.9%	3.2%	3.3%	5.0%	0.6%	6.6%	1.1%	3.8%	3.0%	2.7%	5.7%	6.5%	8.3%
公園・運動場等	4.9%	8.6%	6.2%	4.3%	2.0%	1.8%	1.7%	1.9%	7.5%	1.9%	6.6%	0.7%	1.8%	2.1%
未利用地	1.1%	1.5%	1.1%	3.8%	0.5%	1.3%	3.0%	2.7%	1.6%	0.5%	2.8%	2.4%	1.6%	1.4%
道路	19.3%	17.9%	15.0%	19.0%	23.6%	22.7%	20.5%	8.3%	16.2%	15.3%	15.4%	17.5%	15.9%	22.0%
鉄道・港湾等	9.2%	0.0%	2.6%	1.5%	1.0%	1.4%	0.4%	0.0%	1.6%	2.0%	0.6%	0.0%	1.0%	0.0%
農地	0.0%	0.0%	3.7%	1.1%	0.1%	14.8%	11.7%	22.1%	6.7%	27.1%	0.3%	10.8%	16.0%	1.0%
水面・河川・水路	14.4%	1.3%	3.5%	1.7%	0.0%	0.1%	0.1%	2.0%	3.1%	1.2%	8.0%	0.9%	0.4%	0.1%
森林	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	1.7%	1.7%	0.5%	16.3%	0.0%	3.0%	1.6%	4.9%	1.3%	0.1%
原野	0.1%	0.2%	3.3%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	15.2%	2.0%	2.7%	11.4%	1.7%	1.9%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4 グループリビングの概要

グループリビングとは、健全な自立した高齢者が個別に独立した個室空間を持ち、個人の自主性やプライバシーを守りながら、共用の空間を利(使)用し、共に暮らし・生活をする住まい方である。

厚生労働省「介護予防・生活支援実施要綱」で記された「高齢者共同生活(グループリビング)支援事業」では、「加齢による身体機能の低下を補うために、共同で生活している形態」をグループリビングとしている。しかし、ほとんどのグループリビングが助成の対象^{注6)}となっていないのが現状である。

5 調査結果

5-1 居住者の基本属性

調査対象グループリビングの居住者の性別は女性が82.1%、男性が17.9%と女性が多く、年齢構成は平均年齢は80.3歳となり、後期高齢者は81.6%の割合である。

5-2 諸室面積について(表4)

居室空間の面積の平均は289.1㎡、共用空間の面積の平均は283.2㎡である。居住者定員での一人あたりの居室空間の平均面積は22.8㎡、共用空間の平均面積は25.0㎡である。

5-3 周辺環境について(表5)

グループリビング12事例(約86%)で、半径1km圏域内

の土地利用面積のうち住宅用地が最も大きい割合を示した。GHKでは商業用地が約21%と最も割合が高く、GHSでは農地が約22%と最も割合が高くなっている。

5-4 居住者の年齢別による類型化^{注7)}

居住・生活環境への満足度は、前期高齢者と後期高齢者とで、類似傾向は見られるが、後期高齢者の方が前期高齢者より18項目中13項目で満足度が高い。(図1)

周辺環境への満足度は、後期高齢者に比べ、前期高齢者のほうが満足度が高く、年齢が高くなるにつれ、満足度は低くなっていく。これは、高齢になるにつれ、身体的能力が低下し周辺環境との関わりが少なくなっていくことが要因の一つと考えられる。(図2)

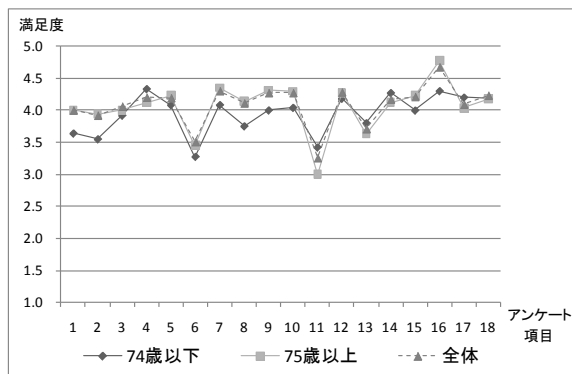
地域との関係に関しては、前期高齢者は後期高齢者に比べ、10項目中7項目で地域との交流の頻度が高くなっている。(図3)

5-5 居住者の居住年数別による類型化^{注8)}

居住・生活環境への満足度は、住み始めの満足度は高く、「6か月から1年」から低下傾向になり、「6年以上」から、再び増加傾向がみられる。(図4)

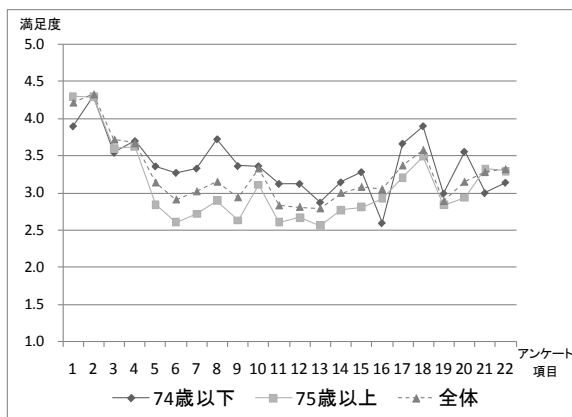
周辺環境への満足度は、「1か月未満」と「6年以上」が高い値を示した。(図5)

地域との関係は、入居年数が長くなるにつれ、地域との交流の頻度が高くなっている。(図6)



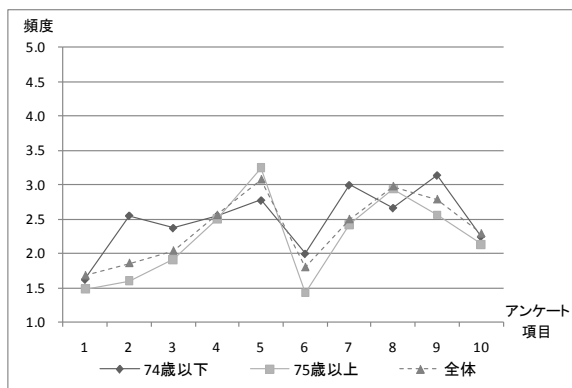
	合計	74歳以下	75歳以上
1. 自分の部屋の広さ	48	11	37
2. 居間の広さ	45	11	34
3. 食堂の広さ	42	12	30
4. 便所の設備	50	12	38
5. 便所の広さ	51	12	39
6. 台所、調理室の広さ	44	11	33
7. 浴室の設備	49	12	37
8. 浴室の広さ	49	12	37
9. 給湯設備	44	12	32
10. 冷暖房の設備	49	12	37
11. 収納の広さ	47	12	35
12. 住まいの傷み具合	39	11	28
13. 庭の広さ	29	10	19
14. 居心地の良さ	48	11	37
15. グループリビングの食事	46	11	35
16. グループリビングで働いているスタッフ	45	10	35
17. グループリビング全体の間取り	30	5	25
18. 住居全体評価	46	11	35

図1 年齢別類型化における居住・生活環境に対する満足度と回答者数^{注9)}



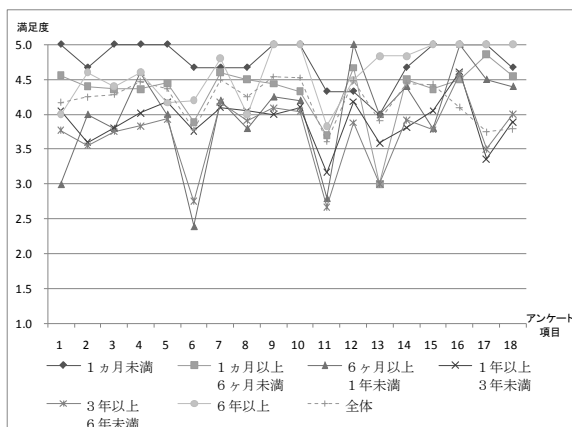
	合計	74歳以下	75歳以上
1. 自然環境	51	10	41
2. 居住環境	48	10	38
3. 街並み	46	11	35
4. 周辺の公衆衛生	44	10	34
5. 買い物などの日常生活の便	49	11	38
6. 銀行などの日常生活の便	49	11	38
7. グループリビング周辺の便(バス)	47	12	35
8. グループリビング周辺の交通の便(鉄道)	41	11	30
9. 公共施設の充実度	41	11	30
10. 医療施設の充実度	48	11	37
11. 娯楽施設の充実度	36	8	28
12. スポーツ施設の充実度	32	8	24
13. 音楽ホール、美術館などの芸術活動の場の充実度	33	8	25
14. 習い事教室など自己啓発に役立てる場所の充実度	33	7	26
15. 福祉施設の充実度	33	7	26
16. 福祉施設との関係性	32	5	27
17. 自治会などの地域活動	30	6	24
18. グループリビング周辺の治安	43	10	33
19. グループリビング周辺の歩道の幅	48	11	37
20. 周辺のバリアフリー、ユニバーサルデザインの充実度	39	9	30
21. 近隣住民のグループリビングに関する理解度、関心度	31	6	25
22. 近隣住民の協力度	31	7	24

図2 年齢別類型化における周辺環境に対する満足度と回答者数^{注9)}



	合計	74歳以下	75歳以上
1. ご近所の家に遊びに行く	43	8	35
2. 趣味と一緒にする	42	9	33
3. おすそ分けをする	44	8	36
4. 立ち話をする	47	9	38
5. 道端での挨拶	45	9	36
6. 自治会などの行事に参加する	44	9	35
7. 必要な時に協力が得られる	32	6	26
8. 優しく見守られている	37	6	31
9. いい関係が保てている	37	7	30
10. 一緒に食事をする	38	8	30

図3 年齢別類型化における地域との関係に対する評価と回答者数^{注9)}



	合計	1ヶ月未満	1ヶ月以上6ヶ月未満	6ヶ月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上6年未満	6年以上
1. 自分の部屋の広さ	55	2	9	5	20	13	6
2. 居間の広さ	52	3	10	3	20	11	5
3. 食堂の広さ	49	3	11	5	21	4	5
4. 便所の設備	57	3	11	5	21	12	5
5. 便所の広さ	58	3	10	5	20	14	6
6. 台所、調理室の広さ	51	3	9	5	17	12	5
7. 浴室の設備	56	3	10	5	21	12	5
8. 浴室の広さ	56	3	10	5	21	11	6
9. 給湯設備	51	3	9	4	19	11	5
10. 冷暖房の設備	56	3	9	5	20	13	6
11. 収納の広さ	54	3	10	5	18	12	6
12. 住まいの傷み具合	45	3	9	1	20	8	4
13. 庭の広さ	34	2	3	1	17	5	6
14. 居心地の良さ	55	3	10	5	18	13	6
15. グループリビングの食事	53	3	11	5	19	9	6
16. グループリビングで働いているスタッフ	52	3	10	5	18	12	4
17. グループリビング全体の間取り	33	3	7	4	11	6	2
18. 住居全体評価	53	3	11	5	19	11	4

図4 居住年数別類型化における居住・生活環境に対する満足度と回答者数^{注9)}

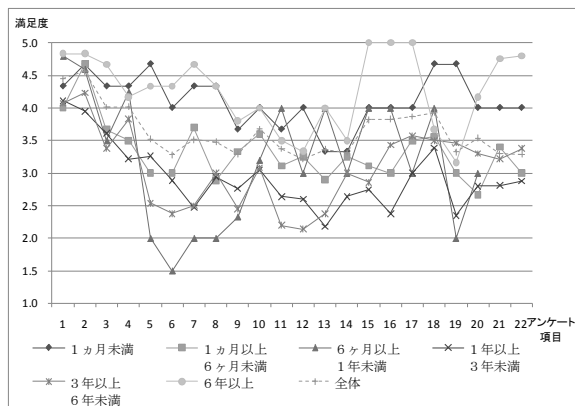


図5 居住年数別類型化における周辺環境に対する満足度と回答者数^{注9)}

	合計	1ヶ月未満	1ヶ月以上 6ヶ月未満	6ヶ月以上 1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 6年未満	6年以上
1. 自然環境	58	3	11	5	19	14	6
2. 居住環境	55	3	9	5	19	13	6
3. 街並み	53	3	9	4	18	13	6
4. 周辺の公衆衛生	51	3	8	4	18	12	6
5. 買い物などの日常生活の便	56	3	11	4	19	13	6
6. 銀行などの日常生活の便	56	3	11	4	19	13	6
7. グループリビング周辺の便(バス)	54	3	10	4	17	14	6
8. グループリビング周辺の交通の便(鉄道)	48	3	9	3	16	11	6
9. 公共施設の充実度	46	3	9	3	17	11	5
10. 医療施設の充実度	55	3	10	5	19	12	6
11. 娯楽施設の充実度	41	3	9	1	14	10	4
12. スポーツ施設の充実度	36	2	8	1	15	7	3
13. 音楽ホール、美術館などの芸術活動の場の充実度	38	3	10	1	11	8	5
14. 習い事教室など自己啓発に役立てる場所の充実度	38	3	8	1	14	8	4
15. 福祉施設の充実度	37	2	9	1	16	7	2
16. 福祉施設との関係性	39	2	10	1	16	7	3
17. 自治会などの地域活動	35	2	6	1	17	7	2
18. グループリビング周辺の治安	50	3	9	2	18	12	6
19. グループリビング周辺の歩道の幅	55	3	8	5	20	13	6
20. 周辺のバリアフリー、ユニバーサルデザインの充実度	46	3	9	3	15	10	6
21. 近隣住民のグループリビングに関する理解度、関心度	36	2	5	0	16	9	4
22. 近隣住民の協力度	37	2	6	0	16	8	5

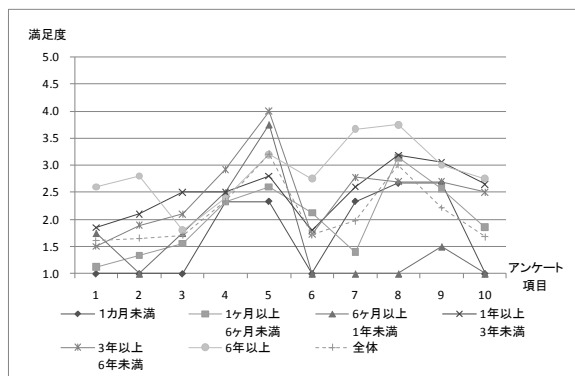


図6 居住年数別類型化における地域との関係に対する評価と回答者数^{注9)}

	合計	1ヶ月未満	1ヶ月以上 6ヶ月未満	6ヶ月以上 1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 6年未満	6年以上
1. ご近所の家に遊びに行く	50	3	8	4	20	10	5
2. 趣味と一緒にする	49	3	9	3	20	9	5
3. おすそ分けをする	51	3	9	4	20	10	5
4. 立ち話をする	54	3	9	4	20	13	5
5. 道端での挨拶	52	3	10	4	20	10	5
6. 自治会などの行事に参加する	50	3	8	4	20	11	4
7. 必要な時に協力が得られる	36	3	5	1	15	9	3
8. 優しく見守られている	42	3	7	2	16	10	4
9. いい関係が保てている	43	3	7	2	18	10	3
10. 一緒に食事をする	45	3	7	3	20	8	4

6 まとめ

年齢別・居住年数別類型化を行った結果、グループリビングに住む居住者にとって、居住年数は、居住・生活環境、周辺環境、地域との関係のいずれにおいても影響を与え、居住年数が長くなるにつれて、生活への満足度、地域との交流の頻度が高くなる傾向が判明した。

一般的な住宅と違い、調査対象グループリビングの内10事例では医療について往診医・介護支援センター・病院のいずれかと提携・委託を行っており、身体のケアについて安心した生活が実施されている。また、スタッフが建物内に常駐しているグループリビングは、7事例あり、居住者は施設のように一方的に介護・支援等を受けるわけではなく、可能な範囲で、自立した共同生活を行っていることが判明した。

7 今後の課題

今後は、事例数を増やし、有効性を得るとともに、建物形態・周辺環境の類型化など多面的な考察において、更なる知見の蓄積を行う所存である。

<注釈>

- 1) 高齢化社会から高齢社会への過程である「65歳以上の総人口比が7%から14%」に達した年数は、日本は24年であるのに対し、フランスでは114年(4.75倍)、イギリスでは55年(2.29倍)となっており、日本は急速に高齢化していることがわかる。
- 2) 高齢者の単独世帯の割合は、平成元年は14.8%であったのに対し、平成21年は23.0%となり、20年間でその割合は、1.55倍となっている。
- 3) 龍谷大学の友友信勝教授の調査によると、人口約98万人の北九州市で年間231人が孤立(独)死しており、単純計算すると全国で年間3万に近く孤立(独)死で亡くなっていると推測できる。(毎日新聞2008年1月15日の新聞記事による)
- 4) 住宅地図は、ゼンリン住宅地図2008年度版、2009年度版、2010年度版を利用した。
- 5) 居住者の回答率に関しては、アンケート項目に沿ったヒアリングによって得られた回答も含む。(内5件)
- 6) 高齢者共同生活(グループリビング)支援事業の助成対象の条件は「利用対象者：おおむね60歳以上の高齢者であって、同一家屋内で食事等、お互いに生活を共同で行うことが出来るもの」「利用定員：5人から9人」「事業実施にあたっての留意点：当該居住形態が5年以上続くことと見込まれること。また居住者について、所有権の共有や賃借権等居住に関する権利関係を明確にしておくこと」である。
- 7) 年齢により活動内容や日常に対する感じ方も様々である。そこで、「74歳以下」と「75歳以上」の前期高齢者と後期高齢者に分類し、居住・生活環境への満足度、周辺環境への満足度、地域との関係に対しクロス集計を行う。
- 8) 居住年数により、グループリビング内外との関係、日常の過ごし方も変化すると考えられる。そこで、「1か月未満」から「6年以上」まで、6つに分類し、年齢別による類型化と同様の項目に対し、クロス集計を行う。
- 9) 「居住・生活環境への満足度」「周辺環境への満足度」の評価は、満足を5点、やや満足を4点、普通を3点、やや不満を2点、不満を1点の5段階評価とし、「地域との関係」の評価については、よくあるを5点、あるを4点、時々あるを3点、あまりないを2点、全くないを1点とし、5段階評価とした。

<参考文献>

- 1) 早川裕子+GLネット、「老後は仲間と暮らしたい」、株式会社主婦の友社、(2000)
- 2) 井上由起子、石井敏、「施設から住まいへ—高齢期の暮らしと環境—」、厚生科学研究所、(2008)
- 3) 嶺学、「高齢者の住まいとケア—自立した生活、その支援と住環境—」、嶺学、株式会社御茶の水書房、(2008)